

22. バプテスマのヨハネとイエスの関係及び使命の比較

既成の世界ではバプテスマのヨハネはペテロやパウロと並ぶ人物だと言われるが、神様の目からみたらどうだろうか。またイエスも十字架にかけられてかわいそうな人だと言われたが神様の目からみたらどうだろうか。

ルカによる福音書 1: 5~25

祭司長ザカリヤ+エリザベツ

ヨハネ

ルカによる福音書 3: 1~6

荒野で水=良心で悔い改めのバプテスマを授けた。

ルカによる福音書 3: 15~17

人々は名門出のヨハネがキリストではないかと思ったが、ヨハネは私にはその人の靴の紐を解く値打ちも無い人が現れると言った。

ルカによる福音書 1: 26~38

マリヤ+大工ヨセフ

イエス

イエスとヨハネは従兄弟。

ルカによる福音書 2: 6~20

イエスの誕生。馬小屋で生まないといけないくらい貧しかった。大工の家は祭司長の家には比べれば石ころ。

マタイによる福音書 13: 53~58

教養もない大工の子なのに教えを伝えられるのは胡散臭いと受け入れなかった。

ヨハネによる福音書 1: 29~37

ヨハネがイエスに会う場面。メシアを探して証するのが使命。一人一人が自分の分野で証をする。霊的使命感者は肉的に弱いから証しないとけない。

ヨハネによる福音書 3: 22~33

最初は証をしていたのに、別々にバプテスマを授けた。ここでメシアの花嫁にならず、友人になってしまった。つまりイエスのもとを離れ、証しなくなった。

ヨハネによる福音書 7: 40~43

イエスの存在について論争が起こった。

マタイによる福音書 17: 9~13

イエスの弟子は聖書に詳しくなかったため、ヨハネは誰かと聞いた。

ヨハネによる福音書 1: 19~23

ヨハネはエリヤではないと言った。確かに肉体的なエリヤではなかったが、エリヤの使命を持っていたから。

これでイエスが言ったヨハネ=エリヤだということが信用されなくなった。

ヨハネによる福音書 3: 18~20

ヨハネ捕まる。自分勝手にヘロデ王の愛人問題に口を出したから。イエスを連れて行ってイエスの御言葉で判断すべきだった。

マタイによる福音書 11: 2~6

ヨハネもイエスから離れて、イエスの存在の核心が揺らいだ。ヨハネはイエスに躓いてイエスを受け入れられなかった。

マタイによる福音書 11: 7~15

当時旧約代表としてヨハネは大きな使命をもらっていた。ヨハネがイエスの次の2番目に天国に入る予定だったが、証しするという使命を果たせず、イエスの弟子に奪われていった。

ヨハネによる福音書 14: 1~12

既成教会では殉教というが、花嫁候補がこのように殺されるか。主を捨てたからこのようになった。証する人がいなかったの自分で証するしかなく、迫害がきつくなり、十字架にかかるようになった。自分の得意分野で神様を証し、主を守らないといけない。

ヨハネはイエスと会った後でも人々にバプテスマを授けた。自分の宗教を作ってしまった。今度こそこの歴史を成功させないといけない。

2004年3月21日 社会人の集まり
「関係使命」 by 名古屋：庄司亜矢子

ユダヤ教の人がどれだけ待ち望んでいたか。2000年前はどんなだったか。マラキ預言者以来、靈的指導者がいなかったのも、みんなが好き勝手に混沌としていた。肉体的にも宗教的にも墮落していた。そこでメシアが現れるというので期待していた。みんなにも神様の心にかなうものが無かったら摂理に来ていないのじゃないか。そこで力強く御言葉を伝える人がいた。

マタイによる福音書 3：1～3

バプテスマのヨハネが御言葉を伝えていた。飛行機が降り立つときの滑走路を整えるような人だった。

ルカによる福音書 3：15

ヨハネが大胆に語ったから、この人は誰かと知りたくなり、噂が広がっていた。祭司の息子で言葉も堪能だった。肩書きは完璧。彼が生まれるときも御使いが来た。

一方イエスは馬小屋で生まれ、ナザレというド田舎出身の大工の息子で、社会的身分も低かった。イエスは使命を受けてどうしたらいいかは神様から学んでいたから、ヨハネのところに行った。そして…

マタイによる福音書 3：13

バプテスマのヨハネから洗礼を受けた。そして聖霊が下り、神様の声が聞こえた。イエスはバックグラウンドが無かったが、すべて御心があった。ユダヤ人から広げていく御心があったから、ヨハネに証させるつもりだった。ヨハネもメシアを待っていた。

ヨハネによる福音書 1：32

ヨハネはメシアに関する啓示を受けていた。そしてイエスがメシアだと悟った。悟った時点でイエスについていき、御心を広げるべきだった。

ヨハネによる福音書 3：22～

イエスとヨハネは別々にバプテスマを授けている。それを見て弟子とのあいだで論争が起こった。イエスとひとつになったら栄えるのに…。ヨハネは自分が受けた啓示に確信が持て無くなった。心の中に不安があると伝えられない。

マタイによる福音書 17：10～17

エリヤはバプテスマのヨハネだと言った。

ヨハネによる福音書 1：19

ユダヤ人にとってメシアが誰かは重要なこと。ヨハネは大胆にイエスがメシアだといったら良かったが、ヨハネも確信が揺らいでいた。

マタイによる福音書 11：2

ヨハネも使者を使わしてイエスにメシアかどうか聞いた。ヨハネはイエスに躓いてしまった。

ヨハネは使命を果たせなくて、王の愛の問題に口出ししたため、反感を買って獄に入れられた。

ヨハネ以上に肉的に持っていた者はいなかった。

マタイによる福音書 14：1～14

王は自分の誕生日パーティーで娘を躍らせ、打ち合わせどおりに王は喜び、約束どおりヨハネの首を与えた。

神様の歴史をなすべきだったが、できなかった。ゆえに十字架にかかるしかなかった。

疑い、心が弱くなってその使命から離れたから。

社会にはいい物がたくさんあるが、それを還元して。

主人じゃないと語れない。今の時代もそうなる恐れがある。イエスは3年半しか伝えられなかった。理想世界を成す主人が来ている。Rはイエスに「あなたが揺れてしまったらいけない。」Rは我々に「惑わされてはいけない、ゆれてはいけない。」と。